

カナザワケンチクサンポ

カキノキバタケ・サトミチョウ・ミズタメマチ・シンタテマチ・ホンダマチ・デワマチ
金沢建築散歩 柿木畠・里見町・水溜町・新堅町・本多町・出羽町



さあ、金沢と歩いてみよう!

金沢散歩は発見を重ねる小さな旅行です。町も水も森も、日々歴史を重ねています。日常、気がつかなかった風景や物事に出会い、自分自身も金沢の歴史とひとつになる。まちを歩くのではなく、まちと歩く。それだけでまちがいつもと違う表情をみせるかもしれません。

ミズノミチ 水と歩く

- 01 丘の上にポコッととはえる21世紀美術館。見る方向によって表情を変えるににくいやつ。
- 02 地元民風アプローチ。こんなところにあるんです、階段。
- 03 美味しいご飯と人情のマチを感じる通り。ご飯悩んじゃいます。
- 04 用水の上に建物が。そーっと覗いてみてください。
- 05 兼六園を流れてきた辰巳用水と街中を流れてきた鞍月用水はここで合流します。
- 06 その昔ここは柿木畑であったそう。一面に柿の実が成っている風景を想いながら、探してみましよう昔の記憶。さて、柿木はどこに？
- 07 ここにも用水が顔を出しています。用水はマチを栄えさせる大切な鍵。一つずつ表情を比べてみるのも楽しみ方の一つ。ここは春には桜が咲いて白く染まる用水が見れちゃいます。
- 08 よく見て、隠れ家風ご飯やさんがほらそこに。
- 09 またもや用水スポット。上を架ける橋の名にも注目。
- 10 突如現れるこまちなみ里見町。よく見て下さい、一家に一松の木。これ、この辺りでは常識なのです。
- 11 生活に密着してきた用水がここに。段を降りて座ってみると触れるくらい近くに水と風。
- 12 ちょっと休憩？過去と現代を行き来できる夢のスポット。ワープ酔いにご注意を。
- 13 ここで里見町へのタイムスリップ記念を一枚。ここは数少ない昔からの町名を守った町なのです。
- 14 里見町 1995年、こまちなみに指定された里見町。土掘り前庭の緑、その奥の母屋の大屋根などにご注目。かつて武士が毎日眺めていた景色が今なおここにあり。

- 15 加賀友禅奥田家。オレンジののれんが印象的。
- 16 こちらの橋、里見橋。見渡すとまだ蔵がチラホラ。蔵の立ち並ぶ用水を想像すると、うーん見てみたい！
- 17 目に留まらないはずがないこちらのドーム。元タブラネタリウムだったのよ、という近所のおばあちゃんの証言あり。
- 18 たくさん並ぶマイブリッジ！橋の上に庭を作ったものや、木の素材を使ったこだわりのマイブリッジも必見です。
- 19 鞍月用水 元は金沢城の防御のために1599年に構築された鞍月用水。城の防火用水や菜種油を採る水車の動力としても利用されておりました。
- 20 城下町金沢。昔の堀の跡がかくれんぼ。
- 21 この先鈴木大拙先生生誕記念碑があるとのこと。進むこと330m。
- 22 その昔、この辺り一帯は武家屋敷であったとのこと。よって、ここから先、道複雑なり。
- 23 金沢の偉人の哲学者・鈴木大拙氏。ここ下本多町で誕生したのです。

カワノミチ 川と歩く

- 01 昔も今もにぎわいをつくる開けた小道の十字路。さて、どちらに進もうか？
- 02 こんなところにも昔のなごりを感じれる小道があるので。
- 03 言葉や写真じゃ伝えられない心地よさってこういうこと。
- 04 水溜町 犀川の埋め立てによってできたこの土地には水溜と呼ばれる堀があったそう。その名残を町名に残したこの場所、1997年にこまちなみに指定されました。
- 05 城下町金沢では珍しい、ずーっと真っすぐ真っすぐ通った道。
- 06 木製カーブミラーがお仕事中。

- 07 狭い小道を抜けて広がった視界の先には犀川。実は今まで見てきた用水の水はここから来ていたのです。
- 08 室生犀星の記念碑は、まちも川も眺められる木陰の元に。
- 09 またまた細い路地に入りこんじゃいます。町猫になったつもりでどうぞ。
- 10 ここ新堅町商店街は金沢の静かなるニューホットスポット。うーん、ノスタルジー！
- 11 キョロキョロ探せば見えてくる、ちょっと素敵な日常。

ニワノミチ 庭と歩く

- 01 建築内の壁や形にはすべて意味あり。それらを辿りつつ、鈴木大拙の生涯を知りながら自らの思想と向き合うとよし。
- 02 狭い小道を抜けると一面にあふれる緑。こちらの壮大な木々たちを鈴木大拙館の借景のため貸出中。
- 03 ここで見る「露地の庭」。先ほどと違うその表情。
- 04 金沢散策は「立ち止り・振り返る」これ基本。気持ちが浄化されるのは気のせいではございません。
- 05 緑をぬけてウッドデッキの先にあるものは…？
- 06 昭和初期の「旧中村邸」。予約すればこの立派なお屋敷で宴会などもできちゃいます。別棟で美術館もあり、金沢の茶道文化に出会えます。
- 07 涼しげな水や風の音が聞こえる庭園から緑の並木道へゆっくりゆったり進みます。
- 08 有名な金沢の偉人たちがとめ見。
- 09 敷石に案内され奥へと進める素敵スポット。偉人が守るは緑の小道。
- 10 古今混在の坂道。時の変化を感じつつ、ゆるやかなカーブを進むと見えてくるのは「まるびい」。

- 11 21世紀美術館～柿木畠の西外惣構堀。こちらは金沢城を防御するために内と外の二重で築かれた惣構堀の一部。当時、堀の管理人である惣構橋番人によって、堀へのゴミ捨て・周囲の竹林伐採などが禁止され大切に守られてきたのです。
- 12 左手に市役所を見つ警備員さんと会釈を交わし、21世紀美術館の周りをぐるっと一周。

モリノミチ 森と歩く

- 01 水の音に誘われて辿りつく森への入口。さあ本能のままに進むべし。
- 02 木漏れ日に優しく包まれながらも力強く流れる滝。
- 03 深緑と陽光のコントラスト必見。
- 04 大正時代にタイムスリップしたような赤茶色の空間が広がる。先に見えるはレンガ造の石川県立歴史博物館。元金澤陸軍兵器庫という重要文化財でもあるのです。
- 05 まっすぐに延びる緩やかな坂道は気持ち良い風の通り道。自転車で走ると最高の道。
- 06 古いものから新しいものまで。石川の美術品を幅広く見ることが出来る石川県立美術館。
- 07 辰巳用水 11kmも流れる辰巳用水は、一度兼六園内を経たあと市街地へと流れています。町の人々は、用水を通して見たことない兼六園を思い描いてたのでしょうか。
- 08 金沢という街の長い歴史を見守ってきた石垣の寛大さにあなたは何を思いますか？
- 09 見上げると上へつながらる階段。どこまで続いているかはお楽しみ。
- 10 大きな木が差し込む光を揺らして散らします。
- 11 21世紀美術館を見渡せる緑の額縁あり。美術館の白さが映えます。
- 12 緑にとけこみ県立美術館カフェの大きなガラス。世界的に有名なパティシエの味でひとやすみ。